

## 会議概要書

会議の名称	第4回 通学等検討委員会
日 時	令和4年4月22日（金）午後6時～7時10分
会 場	市役所 西会議室
出席者	市教委：竹内教育次長、太田教育参事、平林課長、一本木課長補佐、松倉課長補佐、（中山職務代理者、仲原教育委員、下川教育委員、森教育委員）9名 委 員：7名、（準備委員会委員長）1名
次 第	1 開 会 2 あいさつ 3 会議事項 （1）冬期の通学方法について （2）学校運営協議会について （3）その他 4 閉 会
主な意見等	<p><b>【冬期の通学方法に関すること】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、スクールバスは、冬場何キロ以上か ⇒ 距離は通年と変わらない。スクール以外でふれあいバスを利用できるようになっている。スクールは直線で4 km以上。</li> <li>・ 自転車の台数を考えると2～2.5 kmを選択範囲にするのでよい。</li> <li>・ 案1で自転車数は大丈夫か ⇒ 電車やバスを利用できるところは、距離にもよるが利用されると想定しているので、自転車の台数も問題ないと考えている。自転車置き場も1台あたり0.6mで見込んでいたが、0.4～0.5mの幅であるともう少し入る。また現プールを解体し駐車場にする予定であり、そこに一部自転車置き場を設置するよう検討している。これまでも自転車通学自体が200台を超えることが検討委員会でも心配されていた部分でもあるので、200台を超えない範囲で想定している。</li> <li>・ 通年を通して、通学方法が夏場と冬場で変わる区間は小さい方が、生徒にも保護者にもわかりやすい。</li> </ul> <p>○冬期の通学手段は、案1とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択区間（自転車）は ⇒ 現状、バスも電車も走っていない地域で、選択区間ではあるが、徒歩または自転車となる部分である。今後、具体的にスクールバスやふれあい号での路線を検討する際に対応したい。</li> <li>・ 安全な通学方法の確保と、保護者の送り迎えが増えないよう対応をお願いしたい。</li> <li>・ バス停や路線・本数は ⇒ 具体的なものは、この基本方針に従って、業者等関係機関と検討し決めていきたいと考えている。</li> </ul>

## 【学校運営協議会に関すること】

### ① 協議会組織

- ・地域に開かれた学校づくりが大事であるので、地域の方かに入っただくことは必要。子どもたちが地域と関わりながら、教室で学んだことを生かせるようにあってほしい。
- ・地域に通じた方で学校を理解している方に入っただければ。
- ・これまでの経験からCS発足当初は内容が分からない状況で、充て職だけの組織で形式的であった。3年くらいを経過してから、実際に地域で子どもたちのために活動している方たちが変わった。そこから議論が活発になり、CSが機能するようになった。これまでの一中・仁中の歩みが無駄にしないようにすることと、地域で子どもたちのために活動されている方の参加が必要。早い段階で人選してほしいと思う。新校が出来てから発足するのではなく、新校の方針を決める段階に地域の方の意見を聴取してもらえるように進めてほしい。
- ・新校になったときに、コーディネーターが1人では大変と思う。一中、仁中のコーディネーターに継続いただきたい。
- ・これまで携わっていただいた方は、活動の様子も分かるので、入っていた方がよい。組織づくりも、やり易いのではないか。
- ・学校支援ボランティア代表者会の部分を手厚くする方が大事ではないか。
- ・コーディネーターの仕事はとても大事である。2人いても働かないと意味がない。学校のボランティア活動が3つあるが、参加者が少ない。在校生の保護者が大部分で一般の方がほとんどいない。
- ・協議会の人数は15人程度が良いと思う。
- ・コーディネーターの仕事は非常に大変であると思うが、船頭が2人より1人の方がまとまりやすいのではないかと思う。
- ・コーディネーターは教育委員会が委嘱するのか ⇒ はい
- ・組織が上手く回ってくれば、いずれコーディネーターは1人でよいのではないか。

### ② CSの活動

- ・開かれた学校づくりには、地域が協力しなければならない。実働の学校支援ボランティアを充実するかが大きなポイント。学校の敷居が高い部分をどう下げるかが大事。年3～4回の運営協議会では、難しいと思っている。毎月、運営協議会を開催しているところもあるようですが、それだと逆に負担になってしまう。
- ・中学校では、キャリア教育の部分を大切にしてほしい。
- ・地域に出て、大人の方に感謝されたり、褒められたりすることは、自己有用感が高まる。そういったことができるような活動は続けてほしい。

- |  |   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>• 一中のカルチャースクールは、夏休みに学校を利用させてもらい、地域の方に講師をしてもらって、ものづくりなどを行った。作ったものは、文化祭で展示し地域の方も見学にくる。如何にして地域の方に学校に来てもらうかが大事である。ただ呼びかけても人は集まらない。</li><li>• 子どもたちが地域に出て活動する場があってもよいのではないか。部活でボランティア活動ができるとか。新校で考えていただけたらと思う。</li><li>• 地域の方たちが関われる仕組みづくりと、子どもたちが地域に関わっていくための仕組みができれば、キャリア教育においても効果があるのではないか。</li></ul> |
|--|---|